

防コミの歩き方

BOSAI
KOBE
MIRAI

タイ王国でBOKOMI紹介

神戸市では、自主防災組織である「防災福祉コミュニティ(BOKOMI)」が市内191地区で結成され、熱心な地域防災活動が実施されています。

阪神・淡路大震災で学んだ「自助」「共助」の精神で取り組まれているこの活動を、世界各国で生かしていただこうと、神戸市消防局では世界発信に取り組んでおります。

そういったなか、タイでコミュニティ防災を広める支援をおこなっているJICA(国際協力機構)から協力依頼を受け、平成24年12月に現地で講演等をおこないましたので紹介します。

●タイ バンコク

タイは平成22年秋にチャオプラヤ川が溢れ、800人を超える方が犠牲となったほか、浸水により日本企業へ影響を与えたことは記憶に新しいところです。

タイ政府はその後、コミュニティ防災活動の実施ペースを上げることを目指し、この度JICAの支援により防災ファシリテーターミーティングを開催することとなり、神戸の継続的な地域の取り組み、ベトナムでのコミュニティ防災を参考に、コミュニティ防災マニュアルを改訂することとなりました。

今回のファシリテーターミーティングの会場は、タイの内務省防災局パトゥムターニ防災アカデミーという所ですが、ここは水害のときに深いところで2mぐらい浸水したとのことでした。

●ファシリテーターミーティング(12月12日)

ミーティング1日目は、神戸の防コミの訓練事例や子どもたちに阪神・淡路大震災の教

訓を伝える防災教育などを紹介し、地域コミュニティで継続的に防災に取り組む重要性を訴えました。



引き続き、ベトナムの農業農村開発省の方がJICAと連携してコミュニティ防災の普及に取り組んだ事例を紹介されました。

●討論会(12月13日)

2日目は、神戸とベトナムの事例を参考に、タイでのコミュニティ防災マニュアルの改訂に向けて討論会が開催されました。地域活動の支援をおこなうファシリテーターの役割が非常に重要であると再認識されたように感じました。

今後はこの議論を踏まえ、マニュアルを見直すとのことでした。

この度、神戸市の地域の皆さまの熱心な取り組みをタイでお伝えしましたが、今後のタイでの防災活動のヒントになり、減災につながればと思います。

(地域防災支援係 秋田稔之)